

令和6年度第43回別府市人権教育学級開級式及び学習会

日 時 令和6年6月6日(木) 10:00～12:00

場 所 別府市中央公民館 講座室

1 開級式

(1)開式のことば

(2)挨拶(概要)

○別府市教育委員会 教育長 寺岡 悌二

- ・43回を迎えた人権教育学級への参加について感謝を申し上げたい。
- ・平成28年に差別解消3法が成立・施行されたが、様々な人権課題が存在している。
- ・学校では、子ども一人ひとりを大切にサポートし、断固としていじめを許さない学校にしていくことを決意し取り組んでいる。
- ・障がいのある子どもさんを周囲の偏見から全力で守る保護者の姿を紹介し、共生社会を実現していくことの大切さを伝えた。
- ・人権教育学級を通して、部落差別問題をはじめ様々な人権問題を学び、人権についての考え方がますます深まり、差別を許さない自分を再度見つめ直し、人権感覚を磨いてほしい。



〈寺岡 悌二教育長〉

○別府市PTA連合会 副会長 永田 真一(会長代理)

- ・この人権教育学級は今年で43年という長い歴史をもつ別府市が誇る人権啓発のための学級である。これまで延べ2万7千人以上の方が学んでこられた。
- ・この学級には、「部落差別問題をはじめとした様々な人権問題について正しく認識すること」と「受講者一人ひとりがものの見方・考え方や価値観、自己の生き方を問い直すことで人権尊重の意識と態度を育むこと」の2つの目的がある。
- ・この学級で学び身につけたことを、家庭や学校、職場や地域に広げていっていただけることを願っている。



〈永田真一 市P連副会長〉

(3)主催者・共催者等紹介

- ・寺岡悌二教育長 ・永田真一PTA連合会副会長 ・田辺裕市民福祉部長

(4)閉式の言葉

2 学習会 講師:人権教育学級担当 栗林 太郎

(1)オリエンテーション

- ・プレゼンテーションによる人権教育学級の説明、令和5年度の実績、様々な人権問題と令和6年度実施計画、今回の学習テーマ「子ども理解を深めどう関わっていくか」の共有



〈オリエンテーションの様子〉

(2)第1回学習会

①グループでの自己紹介

②事例の提示と感想交流

(ロールプレイ子ども同士の差別事象、差別発言に対する保護者の対応事例)

③説明(カウンセリング技法を用いた子どもとの関わり方)

④演習(カウンセラー、クライアント、観察者に分かれての相談演習)

⑤まとめ



〈演習の様子〉

3 参加者の感想

- 様々な人権問題に対し、別府市や県域での対応機関や仕組みがあることを初めて知った。
- 教育長がおっしゃっていた「障『害』者」はNGにハッとさせられた。人権についてもっと向き合っていかなければならないと思った。
- 子どもと話す時に一度手を止めて受容や支持をしたり、「どうしたい?」「どうなったら嬉しい?」など投げかけながら、意識して実践してみようと思う。
- 「聴く力の大切さ」を学んだと同時に、「聴くことの難しさ」を感じた。「上手な聴き方のポイント」を活かしていきたいと思った。